

## アフターコロナに向けての 本当の安全安心の構築

総合防犯設備士委員会 特別委員  
テレ通株式会社 代表取締役社長

八ツ橋 朋和



### 【総合防犯設備士取得に至るまで】

弊社は富山県にあります防災設備、防犯設備、通信設備、携帯ショップを運営する販売、施工メンテナンスを請け負う会社であります。

平成3年に新入社員として入社した私は当初、携帯電話の販売を主軸に営業活動をしておりました。数年経過の内、横目で本社営業の防犯設備の提案販売を見ているうちにシステム提案のおもしろさを感じ、携帯電話の営業とあわせて防犯設備も販売するようになりました。これが防犯設備を販売したきっかけです。その後しばらくして、営業、工事は基本、防犯設備士の資格を取得するのが会社の暗黙のルールとなり、平成12年に防犯設備士の資格を取得しました。その後、弊社が加盟していたセキュリティハウスグループの全国の仲間達が次々と総合防犯設備士に合格していったことで、「防犯のプロとは総合防犯設備士である」という考えになっていましたということが受験動機となりました。

上記の流れがありまして、講習会を受講し私も受験しましたが、見事撃沈。模範解答も無く、答え合わせもできない時代でしたので何が正しくて、何が間違っていたのかもわからないまま過ぎ去っていました。何とも言えぬ気持ちとどのような受験勉強をすればよいのかわからぬまま、もう一度、翌年受験しましたが結果は変わりませんでした。この時の何とも言えない気持ちは今も忘れません。自分の力不足はあるにしても、何をしたら合格できるのかわからないまま突き進んでゆく気持ちは当時の私にはありませんでした。もう二度と受験しまいと思っておりましたが、2年前に現在の会社の代表になったことで改めて、防犯に関わる仕事が人生の仕事になったと感じたこと。と、あわせて再度、今後求められる、本当の安全安心とは?をもう一度勉強したくなったということが、今回の受験動機でした。幸い、前回とは全く違い、過去の問題集、模範解答が公開されてきていたので進む方向性が明確になったのは本当にありがたく、地に足がついた受験勉強となりました。もし、私と同じように当時不完全燃焼で終わっている皆さん!前回とはかなり違う受験対策が可能になりましたので、今一度、挑戦する価値は十分にあると思います。「アフターコロナに向けての本当の安全安心の構築」皆さんと共に創っていけたら幸いです。

### 【最近の犯罪に対する活動】

最近、よくニュースで聞くようになったのがサクランボ、ブドウなどの特産品を狙った盗難被害です。収穫シーズンということもあり、全国各地で心無い犯罪の被害が報告されています。

あるJA営農指導部担当者は「1年かけて大切に育てた果実を盗まれたというのは心が痛む。少しでも被害が減るこ

とを目標に、盗難抑止システムの運用を進めていきたい」と話していました。

我々総合防犯設備士からの提案としてまず、最初に出る案は防犯カメラです。最近では低価格で夜間でも高画質な、しかも録画時間も長時間のタイプが主流になってきています。配線が難しい場所では無線でつなぐタイプや、電源確保が難しい場所では電源不要な簡易独立型のタイプなど、様々なタイプのカメラが出てきているので用途に合わせて確認していただければと思います。あわせて、センサーライトや通行人に見えるように「防犯カメラ作動中」「盗難注意」「立ち入り禁止」「農薬散布直後」等の看板やステッカーも設置することで、防犯効果はさらに向上すると考えます。

二つ目の提案としては、果樹盗難抑止システムをお勧めします。これは、園地に赤外線センサーを設置し、センサーが侵入者を感知すると警報音と赤色灯で警告、園主にメールが届く仕組みです。JAが購入し組合員にレンタルしているケースや、園主が購入しているケースなど様々な導入方法があります。運用前には、毎年管内で50件前後の盗難被害が発生し、一度に大量に盗難される事例も多かったと聞きます。運用後は盗難件数が最も多かった時期と比較して、70%以上減って、1度に盗まれる量も少なくなるなど、地域全体の防犯にも威力を発揮しています。

このように様々な防犯設備による対策がありますが、基本、犯人は必ず下見をします。実際の自身の犯行をイメージした際にその園が防犯対策をとっているか否かを犯人に知らしめることは、犯行動機を増幅させるか断念するかの分かれ目になります。ここで、「ここはリスクが高いからやめておこう」と思われる事が本当の意味での「防ぐ犯罪」略して「防犯」だと思います。このような環境を整えないと果実を守れないというのは大変残念ですが、人間、出来心というものもあるでしょう。犯罪者を不必要に作らないためにも「犯罪を起こさせない環境」の促進に今後も努めていきたいと思います。

